

タイトル「**2021年度 人間学部**」、フォルダ「**大学 人間-心理学科**」
シラバスの詳細は以下となります。

科目名	神経・生理心理学		
英文科目名		他学部他学科履修可否	○
担当教員	長野祐一郎		
対象学年	2年,3年,4年	クラス	1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	金 3	単位区分	必,選択
授業形態	講義	単位数	2
キャリア該当科目			
備考			
ディプロマポリシー	<p>2. 心理学の諸分野の専門的知識と人間を科学的に探求するためのスキルを身に付け、これに基づいて現代社会の諸問題を主体的に発見し、心理学的に分析して解決に向けた視点や対応策を提供することができる。</p> <p>3. 自身の考えを他者に的確に伝え、問題を共有し、課題の解決に協働でとりくむためのコミュニケーションをとることができる。</p>		
授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 本講義では、心と体の関係について、様々な角度から理解を深める事を目的とする。各種の基礎的な計測手法を解説すると同時に、実際にそれらを用いた過去の実験事例を取り上げ、中枢神経系や自律神経系のメカニズムについて学んでゆく。また、主要な関連分野における近年のトピックについても適宜解説を行い、単なる学問としてでなく、これらの新しい知見を日常場面にどの様に活用してゆくか、ストレス・健康といった身近な概念も交えながら、応用生理心理学的視点も含め議論をすすめてゆく。</p> <p>【到達目標】 これらを踏まえ、本演習は、以下を到達目標とする。 1.生理心理学において一般的に用いられる測定指標について概説できるようになる。 2.各測定指標変化の背後にある神経活動について説明できるようになる。 3.心身相関現象をもたらす様々な身体機能について説明できるようになる。</p> <p>本科目はストレス耐性科目として設定されており、授業内にて学生のストレスおよびストレスマネジメントに関する知識とスキルについて学習を促す。</p>		
授業概要	<p>///授業概要</p> <p>[01]生理心理学と精神生理学 [02]生理学的指標(1) 自律神経系の活動：皮膚電気反応 [03]生理学的指標(2) 自律神経系の活動：心拍 [04]生理学的指標(3) 自律神経系の活動：脈波 [05]生理学的指標(4) 自律神経系の活動：体温 [06]生理学的指標(5) 自律神経系の活動：呼吸、筋活動 [07]情動・ストレスとリラクゼーション [08]生理学的指標(6) 中枢神経系の活動：脳波 [09]生理学的指標(7) 中枢神経系の活動：事象関連電位 [10]脳神経系の構造及び機能 [11]記憶、感情等の生理学的反応の機序 [12]高次脳機能障害の概要 [13]体の機能と健康・ストレス [14]セルフ・コントロール [15]まとめ</p>		
学習演題（予習・復習）	<p>本講義では、事前に次回分の講義用レジュメを配布し、熟読したうえで授業に参加することを前提とする。また、授業後には、毎回授業に関する疑問点や感想を書き、提出するものとする。さらに、授業中に扱ったいくつかのトピックに関しては、授業外に独自に書籍やWebサイト等により知識を深め、レポートとして報告するものとする。以上をもって、本講義の予習・復習とする。</p> <p>[第01～06回]授業前のレジュメの熟読（予習：90分）、授業内容の整理および感想の記述(復習：90分) [第07回]授業前のレジュメの熟読（予習：90分）、レポートの作成(復習：90分) [第08～12回]授業前のレジュメの熟読（予習：90分）、授業内容の整理および感想の記述(復習：90分) [第13回]授業前のレジュメの熟読（予習：90分）、レポートの作成(復習：90分) [第14～15回]授業前のレジュメの熟読（予習：90分）、授業内容の整理および感想の記述(復習：90分)</p>		
授業方法	講義形式で授業を進める。必要に応じて、小グループにわかれ、ディスカッションを行う事がある。		
成績評価の基準	目標1～3に関しては、定期的に行う小テストにより評価を行う。成績評価の配分は、小テスト成績を50%、授業への参加度合い（リアクションペーパーの内容から判断）を50%とする。 授業内容に関しての意見・質問については、次回授業の冒頭で20～30分程度かけてフィードバックを行う。		
教科書	特に指定しない。		
参考書	坂田 省吾・山田 富美男（編）2017 北大路書房 生理心理学と精神生理学 第I巻 基礎 生理心理学と精神生理学 第II巻 応用		
実務経験のある教員による授業			
実務経験の内容			
実務経験の当該科目への活用			